

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 友の会	代表者	大寫 良助	法人・事業所の特徴	当事業所は JR 八戸駅より車で5分程にある田面木地区にあり、古くからの住宅地です。国道104号線沿いにあり、八戸市の景勝のひとつ、在家堤（ざいけつつみ）に面しています。町内会や地域の協力の下、認知症高齢者や独居高齢者の暮らしの支援を行っています。
事業所名	小規模多機能ホーム ほっとハウス	管理者	水野 雄大		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	1人	人	1人	1人	人	4人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	①研修の案内やサービス評価について委員会より定期的に全職員に口頭で内容周知し、理解しやすく取り組みやすい環境づくりを行う。	サービス評価について事前の勉強会を行ったことで全職員が内容を理解することができた。また自己評価では回答にばらつきも少なく取り組むことができた。	仕事で時間が無い中、よくまとまっていると思う。その中でも文章で分かりにくい所もあるので具体的に示した方が良い。	サービス評価への取り組み期間を早めに設定し、職員間でより密に確認、検討できるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	①担当者が計画作成時よりケアマネジャーと協働し利用者の目標をたてる。また、その目標については利用者全員分を一覧にし、全職員で周知理解する。ケース会議時には担当者、ケアマネジャーが主導し、目標達成に向けた支援について検討する。 ②日常的に収集した本人の情報や送迎時等に家族に聞取りしたことについて1日2回のミーティング時に情報共有し対応について検討し全職員で実行していく。 ③リスクマネジメントについて、今まで起きた事故やヒヤリハットを取り入れながら年2回（6月と11月）に勉強会を実施する。 ④接遇やケア対応について勉強会を5月に開き、アンケートの集計やロールプレイを用いて具体的に実践し理解を深める。	①ケース会議や日々のミーティングにて介護職員とケアマネジャーが利用者の様子や行動について話し合い、本人や家族のニーズを受け目標を立てて支援している。 ②全職員が利用者や家族から得た情報については、ミーティングにて共有し、ケアの検討まで実行できている。 ③リスクマネジメントについては具体的な事例を取り入れ勉強会を行った。また、毎月のケア会議で事例を取り上げ、職員同士の対応を把握しながらより良いケアをめざし取り組んでいる。 ④接遇の勉強会を開催するほか、毎月のケア会議にて、ケア内容や職員個々の対応について取り上げ、言葉遣い等振り返りを行っている。	中の様子も外から見えていて、私達も気軽に入りやすい雰囲気になっているので地域の方も気軽立ち寄れる環境だと思う。事業所の敷地内に掲示版のようなものを設けた方が良い。	次月のサービス予定表について、全職員で把握できるよう見やすいように掲示し、利用予定の確認や急な対応に誰でも速やかに対応できるようにする。

C. 事業所と地域のかかわり	①利用者が住んでいる地域の夏祭りや文化祭の開催時期を確認し、家族との参加等外出の支援ができる体制を作る。	利用者が住んでいる地域の行事（文化祭等）について、情報を集め、利用時に利用者へ情報提供したり、連絡帳にて家族にお知らせしている。	地域の人から、福祉の相談ができる事を知らなかったとの声が聴かれている。敷地内や出入り口に工夫が必要。	施設敷地内に掲示板を設け、行事の開催内容やお知らせなどを見やすいように掲示し、地域の方が気軽に立ち寄れる環境を作る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	①利用時の様子や行動、及び自宅での様子を家族に確認しながら24時間シートを作成し、今後のケアについて1か月後のケア会議にて振り返り、対応の周知を行う。 ②サービス担当者会議時に介護職員がケアマネジャーに同行し、本人の要望や家族の意向を聞き取り、ケアに反映させる。	①利用時や自宅での様子について、ケアマネジャーの情報収集をもとに全職員で情報共有され、24時間シートの活用が徐々にできるようになってきている。ケア会議での情報共有はできているが継続的な振り返りは、できていないことがある。 ②取り組み開始時、数回は介護職員が同行し、サービス担当者会議に出席していたが、介護業務との日程調整が難しく、ほとんどできていない。	地域の行事にはいつも参加して頂いている。開放的な活動ができているので、これからも継続してほしい。	ご利用者が住んでいる地域で活動している慰問団体やボランティアを探し、当施設に来ていただいて、ご利用者と触れ合う機会を多く持つ。
E. 運営推進会議を活かした取組み	①事業所や職員に関するアンケートを本人、家族対象で3月に行いより良い運営につなげていく。	利用者アンケートは7月に実施し、集計後全職員でアンケート結果に基づき、今後の対応について話し合いを行った。アンケートの集計については広報誌に掲載している。	会議の内容を全部申し送るのではなく、分かりやすくまとめたものを作成し事業所の運営改善につなげた方が良い。	普段回覧や申し送りで内容確認している運営推進会議に全職員が交代で出席し、意見交換できる体制を作る。
F. 事業所の防災・災害対策	①防災訓練（4月、10月）やイベントなど事業所の行事を実施する際は、町内の回覧板や掲示板、近隣の商店等にお知らせを配布し参加を呼び掛ける。また、慰問で来所される方については慰問者の知人等にも来てもらえるよう声掛けを行う。	事業所の行事については、地域や関係事業所等にお知らせし、参加して頂けるよう取り組んでいる。慰問に来て下さる方々には、お知り合いの方も来ていただけるよう声掛けを行っているが、来所されることは少ない。	災害時に、職員それぞれがどのような動きをするのか明確にするためにアクションカードを活用した方が良い。	年2回の法定訓練に加え、火災や天災等の事例を設け、1ヶ月から2か月に1回程度想定訓練を行う。